

## 長野県における薬草栽培 野菜花き試験場

近年、漢方薬の需要が拡大する中、原料となる薬草に注目が集まっています。従来は、「山採り」と言って、山野に自生しているものを必要量採取していましたが、需要が増えた現在はそれではとても足りないのが現状です。また、これまでは中国等からの輸入に頼っていましたが、我が国の需要は過去 10 年間で 1.5 倍に増加する一方、輸出国では自国内での消費が増え、日本に輸出する余力が極端に減ってきているようです。

そこで、国内で野菜等と同じように、畑で栽培することが考えられています。しかし、野菜などの作物とちがって登録農薬が極端に少なく、なにより、その生理・生態が不明瞭です。そこで、野菜花き試験場では、将来の薬草生産の増加を見込み、マルチ栽培により雑草を抑制する栽培体系と機械化による手間のかからない栽培体系の開発を目指して研究を進めています。

薬草は、自然のものというイメージが大切で、「山採りに近い、信州の里山で栽培されている」ことが強みになります。また、近年問題となっている野生鳥獣の被害を受けにくいといった特性があり、近い将来、山に囲まれた長野県に適した重要作物となるかもしれません。



トウキ苗の機械移植試験風景

担当者	袖山 栄次	電話番号	0 2 6 7 - 2 5 - 3 0 8 0
-----	-------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)